

大正・昭和期を

代表する

作家・詩人

佐藤春夫

1892-1964

熊野が 育んだ 文化人

西村伊作

1884-1963

すべてのこと
我に益あり

中上健次

1946-1992

オレこそが
「熊野」だ！

のご紹介

2024年は「紀伊山地の霊場と参詣道」が
世界遺産登録されて20周年です。

平安時代より「蟻の熊野詣」と言われるように人々を魅了してきた『熊野』。

この記念の年に近代の熊野が育んだ文化人のなかから、
今回はお三方をご紹介します。

世界がグローバルスタンダードの下、急速に変化を遂げるなか、
わが国の衰退が危惧されております。

これから紹介します熊野の文化人は、現在の日本が抱える課題を
先取していくつかの提唱を発信し、また生き様を示してくれておりました。

我々同じ熊野人として彼ら大先輩を大いに誇りに思い、

そして全国にまた世界に発信していきましょう。

さらに楽しく使える丹鶴ホールを
目指した文化芸能イベント

2024年6月30日(日) 10時30分～18時

会場：丹鶴ホール（新宮市下本町2丁目2番地の1）

入場
無料

詳しくは裏面をご覧ください▶

熊野が醸し出した進取の気風、 反骨精神、そして寛容性と包容力。



佐藤 春夫 1892 - 1964

「田園の憂鬱^{ゆううつ}」を発表して、さっそうとデビューした春夫でしたが、その後の歩みは平坦なものではありませんでした。作風は、多様、多彩を極め、評論活動も活発に行いました。谷崎潤一郎や芥川龍之介とも親交を深め、3人は時代を代表する作家と目されました。

春夫は「能火^{のうか}野人^{やじん}」とも号しましたが、「能火」とは、「熊」の字を分割したもので、「熊野人」の意味です。終生、この意識を持ち続けていたようです。



西村 伊作 1884 - 1963

伊作は今日私たちの生活と密接に関わる、「教育」や「住宅」のあり方に大きな影響を与えた。彼が創立した「文化学院」では、男女平等や個性の尊重など自由教育を実践した。「住宅」では、体面を重視した客間中心の住宅から、家族皆の生活を重視した居間を中心とした住宅への転換について世論をリードした。このような彼の思想は、従来の習わしにとらわれることなく、積極的に新しい物事に取り組んでいこうとする『進取の気風』に富んだ、父余平や叔父誠之助ら熊野の人々から学んだのでした。



中上 健次 1946 - 1992

新宮高校卒業後上京、同人誌「文芸首都」に参加、「俺、十八歳」が掲載に。1976年「岬」で、戦後生まれで初の芥川賞。77年紀伊半島全域を取材旅行。同年「枯木灘」で毎日出版文化賞、翌78年芸術選奨新人賞。その頃から韓国、フィリピン等のアジアや、ドイツ等欧米への取材多数、その活動は世界的となり、ジャンルも「作家」の範疇には縛られず、映画、音楽、演劇と拡大。87年熊野大学の母体「限の會」を結成。「時間を掛けてでも『熊野に行きたい』と思わせる方途を考えろ。時間を掛けて船で旅する金持ちもいる。ここから目を向けるべきは、消費だけの街東京やなしに、ニューヨークであり世界」との発言もその頃。

丹鶴ホールにて 文化芸能イベント を開催！

日時 2024 6月30日 日 10:30 ~ 18:00

会場 丹鶴ホール

お問い合わせ イベントサポートグループ
あしたもハレヤ! 関 ☎090-8987-7790
FM新宮放送局 北道 ☎0735-21-2350

- 10:30・丹鶴ホールでの準備も楽しもう！
12:00・休憩(CDでも流しましょうか！)
13:00・フラメンコ、新宮市歌・「翼をください」合唱
13:40・近畿大学附属新宮高校中学校吹奏楽部
14:10・踊り演舞(よさこい・HipHop・フラダンス)
15:00・パネルディスカッション(世界遺産登録20年記念)
「熊野が育んだ三文化人を語る」
コーディネーター:辻本雄一(佐藤春夫記念館:館長)
パネラー:佐藤春夫▶東芳史(秋刀魚の会:会長)
西村伊作▶西山修司(西村記念館・旧チャップマン邸の会:事務局長)
中上健次▶森本祐司(熊野大学:前事務局長)
15:40・舞台変更
16:20・ミニパーティー(独唱、好きな曲披露、意見交換会)
18:00・終了

入場
無料